

映画タイトル	Mary Poppins (メリーポピンズ)
製作年	1964年
DVD 情報	日本で入手可/英語字幕あり (139分)
監督	ロバート・スティーブenson
映画について	このアメリカ製ミュージカル映画は、1930年代のロンドンを舞台とするP・L・トラヴァーズ(1899-1996)の児童小説『メアリー・ポピンズ』(1934)を下敷きにしなが、時代を1910年に設定し、父親の覚醒をテーマとした独自の物語を展開しています。映画化を洩る原作者をウォルト・ディズニーが説き伏せてミュージカル映画化にこぎつけた次第は『ウォルト・ディズニーの約束』(2013)で描かれています。大ヒットした本作は、1964年のアカデミー賞で主演女優賞(ジュリー・アンドリュース)、オリジナル作曲賞、主題歌賞(チム・チム・チェリー)、特殊効果賞を取るなど、ウォルト・ディズニー入魂の作品です。最近ではロンドンのウェスト・エンドやニューヨークのブロードウェイで舞台版ミュージカルとして上演され、また人気を博しました。
主要キャスト	ジュリー・アンドリュース(メアリー・ポピンズ役)、ディック・ヴァン・ダイク(パート役)、ディヴィッド・トムリンソン(バンクス氏役)、グリニス・ジョーンズ(バンクス夫人)
あらすじ	ロンドンの閑静な住宅街に住むバンクス家には、バンクス夫妻と二人の子どもジェインとマイケル、料理人のブリルさん、メイドのエレンとナニー(乳母)がいる。バンクス氏はシティの銀行に勤め、家庭も銀行同様に支配者(自分)の管理下で効率的に運営されるべきだと信じているし、バンクス夫人は女性参政権運動にのめり込んで家庭を顧みない中、ジェインとマイケルは愛情に飢えている。子どもたちの面倒を見るべきナニーは高圧的に接するため長続きしない。バンクス氏以外の構成員が皆、不満を抱えているところへ、新しいナニーとしてメアリー・ポピンズが空からやって来ると、物語が動き出す。想像力を駆使する楽しい体験で子どもたちの心を開いていくメアリー・ポピンズに、家庭の規律を乱されたと考えるバンクス氏は不満をあらわにするが...
英語の特徴 発音・文法・語	バンクス夫妻はロンドンのかかなり裕福な中流家庭らしい英語を話します。バンクス氏のテーマ・ソング的な“The Life I Lead”にはイギ

彙	<p>リス標準英語の発音の特徴がよく表れています。例えば日本語でも用いられる「スケジュール」 schedule は「シェジュール」、語頭の wh を [hw]ではなく[w]と発音するために when や why は「ウエン」「ワイ」となります。「イギリス人の家は城」という格言が出れば、城は「キャッスル」ではなく「カースル」(でもスコットランドに行くと「キャッスル」なのでややこしい)、バンクス氏が誇りとする帝国(Empire)は「エムパイア」ではなく「エムパー」に近く聞こえます。メアリー・ポピンズも、労働者階級が多かった一般的なナニーとは違い、知的職業人の英語でしゃきしゃきと話し、バンクス氏をひるませるのですが、とても聞き取りやすいでしょう。</p> <p>対照的に、パートやメイドのエレンは労働者階級の英語を話します。冒頭近く、ジェインとマイケルが迷子になったと聞いたエレンは、動物園のライオンに食われたんじゃないかと騒ぎます。“You don't think the lion could've got at them, do ya? You know how fond they was of hangin' around the cage.”では付加疑問形“do you?”が “do ya?”と発音されます。また複数主語 they に was が使われます。いずれもロンドン下町の英語コクニイの特徴でもあります。パートが歌う「愉快的休日」(Jolly Holiday)では、歌い出しの“Ain't it a glorious day”から、be 動詞でも have でも使える、いわば万能否定形 ain't が使われます。この ain't は現在、より一般にみられます。またここで day は「ダイ」と発音され、次行の May と共に「アイ」で脚韻を踏んでいます。その後、h 音を落とす発音が “Have you ever seen”の Have、happiness、“Mary holds your hand”の holds と hand など頻出します。holiday は「オリダイ」となります。</p>
映画のみどころ	<p>メアリー・ポピンズの友人パートが社会の底辺に暮らすにもかかわらず、人生を楽しんでいるのは現実離れしていますが、堅苦しいバンクス氏の生活と対照的に描かれています。ディズニーによるメアリー・ポピンズの魔法の視覚化もちろん楽しみですが、彼女の荒療治によるバンクス氏の変化が本作の見どころです。</p>
その	<p>山口美知代「英語から探る『メアリー・ポピンズ』の魅力」野口祐子編著『メアリー・ポピンズのイギリス—映画で学ぶ言語と文化』(世界思想社、2008) pp.131-148 に、本項で紹介したイギリス英語の発音・文法の特徴、パート役のアメリカ人俳優ディック・ヴァン・ダイクの英語がコクニイらしくないとイギリスでこき下ろされたという逸話など、詳しく紹介されています。一番長い英単語として有名な supercalifragilisticexpialidocious!の発音のコツもわかりますよ。</p>

